

IV 地域連携と社会資源の活かし方

佐賀県立男女共同参画センター 事業コーディネーター 甲木京子

1 今までの連携・協働事業例から

(1) 福岡市

女性グループとの協働事業（活動支援、公募企画、女性問題講座プログラム研究会、ファシリテーター養成セミナー、北京会議プロジェクト）

(2) 久留米市

DV被害者支援システムづくり、大学などとの協働事業（共同企画・研究、研究者の受け入れ）

(3) 佐賀県

相談事業、性の健康教育、政策参画セミナー、企画相談・コーディネート、講師派遣・紹介事業

*連携・協働先の多様化と広がり、事業のすべてに連携・協働の視点の導入

2 連携・協働の成果と課題

(1) 成果

- ・予算の有効活用（事業効果の最大化） ・県民へのサービスの強化
- ・事業の質のレベルアップ（当事者性・専門性の確保）
- ・それぞれの役割の明確化（事業の見直しにもつながる）
- ・情報の共有による広報面の効果 ・情報やノウハウの蓄積
- ・センターと連携・協働先、双方スタッフのトレーニング効果→エンパワメント

(2) 課題

- ・連携・協働が困難なケースの増加（手間ひまがかかる、話を通じない、期待した効果があがらないなど）
- ・透明性、説明責任、対等性、交渉力が常に問われる→職員の力量も問われる

3 セカンドステージの連携・協働では

- ・ミッションと役割分担の明確化
- ・問われる連携・協働先との関係性
- ・新しい社会資源、連携・協働方法の開発
- ・地域・社会の変革につながる実践重視
- ・事業計画の枠外が重要に

*日々の事業の中で、日々の人とのかかわりの中で根気よく